

佳作

だいじょうぶだよ

荒川区立瑞光小学校四年

光山 あいか

やなぎ田くにお先生、お元気ですか。

先生は、「にん知しう」について考えたことがありますか？ つばさくんのばあばは、「わすれてしまう」病気です。わたしは、この病気が「にん知しう」だということをテレビのニュースで見て、知っていました。わたしのばあばは元気です。

だから、この病気のことを自分とは関係ないと思っていた。しかし、この本を読んで、わたしのばあばもにん知しうになるかもしれないと思いました。わたしのばあばがにん知しうになってしまったら、わたしのことを忘れてしまったら、

こわいし悲しいです。

ばあばははだして家から出て行ってしまい、家族が心配してさがしに行きました。つばさくんは、ばあばが帰って来るかもしれないから、一人で家で待っていました。ばあばが家にいなくなって、ばあばがなぐさめてくれたり、一しょに遊んでくれたことを思い出したと思います。ばあばの部屋の戸だなには、白い小さな紙切れがつまっています。それには、忘れてはいけないことや、みんなにめいわくばかりかけてごめんねという内ようがたくさんメモしてありました。このたくさんメモを見て、つばさくんは「ばあばはみんなにめいわくをかけないようにがんばっているのに、おこっちゃんってごめんね。やっぱりばあばはやさしいな。」

と思ったと思います。

つばさくんは、帰って来たばあばに、やさしく体を温めるようにくつ下をはかせてあげました。

その時、ばあばが「だいじょうぶだよ。」と言いました。つばさくんが小さい時から、困った時にいつも言ってくれた言葉です。

もし、わたしのばあばがにん知しうになってしまったら、わたしは、悲しみや苦しみがほぐれるように「だいじょうぶだよ。」とたくさん言ってあげたいです。大好きなばあばを助けてあげたいです。